

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 25 年 12 月 12 日〔木〕 19:30～20:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 4 名 欠席委員数 3 名
出席委員の氏名
深田 剛／濱田 洋一郎／中村 修／山田 梨香
欠席委員の氏名
岩崎 勇登／重田 朱美／柳 ちおり
放送事業者側出席者名
麓 憲吾／丸田 泰史／沖元 眞実／上野 紋／渡 陽子

4 議題

審議(「なちかしゃみくいば、ちゅんなまうがでい」について)

5 議事の概要

- (1) 欠席者のお知らせ
- (2) 審議(「なちかしゃみくいば、ちゅんなまうがでい」について)
- (3) 次回の審議議題について

6 審議内容

- (1) 欠席委員の報告がされた。
- (2) 番組内容の審議(「なちかしゃみくいば、ちゅんなまうがでい」)

深田委員長

みなさんこんばんは。今日、富山県から戻ってきました。富山に行ってきました。工務店のいろいろお家を見ながら、合掌造りとか、ユネスコの。あれ、釘を一本も使っていないらしいですね。だから高倉と一緒にですね、非常にいい勉強をさせて頂きました。また、島に帰ってきてぬくいやあっち思っていますね。
(数人から:うそだろう～、もう寒くてしょうがないよ。まあ、富山から帰ってきたらや～)

はい、この暖かい奄美で第41回のあまみエフエムの放送番組審議会を開催したいと思います。先ほどもありましたが欠席委員約3名ほどになります。で、しかも女性2名欠席なのですが、梨香さん(山田委員)が入ってきていただいて花を添えて頂いております。

一応議題の方を読み上げてから、各委員にお話をうかがっていききたいと思います。

今回の議題は「なちかしゃみくいばちゅんなまうがでい」についてということで、

本放送が毎月の第三日曜日、13時から60分。そして再放送が翌月曜日の23時、翌火曜日の21時、翌水曜日の16時ということで、再放送が3回あるということですね。

内容です。島の文化である島唄の普及啓発に努める、ステージ等に立つことのない集落の唄者の紹介ということで、パーソナリティーは前山真吾さんです。

この番組の内容ですね、いろいろざっくばらんに、逆にご質問等も受けながら、感想、こういったふうにしたらもっ

と良くなるのではないとか、ここは変えずにそのままいった方がいいのではないのかとか、そういった率直な意見を委員の方から聞かせて頂ければなと思います。中村委員からお願いします。

中村副委員長

こんばんは。真吾君のこの番組をすごく好きなんだけど、時間帯が合わずに聴けずにいて、聴きたいなと思いつつ、今日CDもらって初めて最初から最後まで聴くことができました。やっぱりおもしろいなっち(方言訳:おもしろいなって *「っち」=「って」)思っつ。

前の2人でやってた頃もおもしろかったんだけど、一人でやって各ローカルの現場に実際に行って話を聞くというスタイルはすごくいいなあっち思っつ。しかも、聞く相手が本当の有名所の唄者ではなくて、各シマジマに眠っているローカルな唄者にスポットを当てるのは、なんも言えずにすごくいいと思っつ。

今回も芦根の女性唄者2人の所について話を聞いているけれども、話も真吾君が島口を使いこなして、高齢の唄者達に無理に標準語を使わせずに、そのまま素のスタイルで日常会話な感じでどんどん引き出すのが、前山真吾君はうまいなと思っつ聞いていました。

最初はいつも朝花から入っつ、今日の一曲みたいなのがあっつ、そして最後にも唄があっつ、唄が3回流れてきたのが、歌番組として、聞きたい唄が聴けたのがよかったなあと思っつ。

ただ、一時間というのは、CDをもらっつ聞く分にはかまわないけど、自分なんか、たいがい車の中でしか聞かないから、1時間も車に乗っつているのもなかなかないだろうし、最初から最後まで聞くことは今までもなかったのだけれど、ちょっと難しいかなというふうに思っつます。ということで、尺が1時間というのは正直長いというような感想を持ちました。あまり島唄を知らない方とか、方言がわからない方にはちょっと難解かなとは実際思っつます。でも本当に島唄が好きの人にとっては、すごく楽しくておもしろいと思っつます。これからこれぐらいのレベルでやっつていっつて頂ければなあと思っつます。無理に解説とかも、話の途中で真吾君がわかりやすく言っつているので、改めて解説つける必要もないんじゃないかなと。唄者としてもパーソナリティーとしてもすごく真吾君はすごいなっち思っつながら聞いていた一時間でした。私からは以上です。

深田委員長

ありがとうございます。尺が60分ということについて、中村委員からもありましたが、今日再度みたら再放送が今3回もありますけれども、その辺については何かありますか。聞いたのは一回だけですけれども。

中村副委員長

そうですね。やっつぱりなかなか一回では聞けないから、再放送3回もあるけれども、それに値するぐらいの充実した内容なので、それは3回あっつても全然おかしくないと思っつし、同じ話でもまた再度聞ける感じなのでいいのは、「あまちゃん」だっつて自分は再放送を含めて4回ぐらい見ていたぐらいですし、全然気になりません。(一同笑い)

深田委員長

はい、ありがとうございます。放送局側に聞きたいのですが、60分という枠は結構作る労力も必要だと思っつますが、何か狙いというものがあっつて60分番組にしようと思っつたのでしょうか？

一放送局 丸田

そうですね、月に第何日曜日放送という案内をしましたが、ひと月の中で第1、第2、第3、第4に分けて、そこ

に、月に一回の一時番組を入れ込んでみようという試みがありまして、それに日曜日を使ったという当初の経緯がありました。あまみエフエムの番組のなかでも珍しいのですが、30分とか15分ではなかなか聞き取れないものを1時間みっちり使って聞き取ったりしたい、という意味で始めて、月に1回しか回ってこないということではありますが、設けています。日曜日の彩りという所でも、いいのかなと思い、使わせてもらっています。それがきっかけですね。

深田委員長

せっかくなのでうちよつと聞きたいのですが、その他の4回ある番組を教えてくださいませんか？

—放送局 丸田

実は、当初、第一から第四ぐらいまでは日曜日にあてる番組があるだろうということで組んでいたのですが、その中の全てが埋まっているというわけではありません。次の審議の内容になるのですが、「あの日・あの頃」も月1回の番組の1つです。

—放送局 上野

第一日曜日が島の音楽を流す時間で、第二日曜日が「みちの島ザ・ワールド」です。第三日曜日が「ちゅんなま〜」で、第四日曜日が「あの日・あの頃」になっています。

深田委員長

わかりました。聞いたのは、年代的に固まっているのか、結構ばらけているのかが知りたかったのですが、わかりました。ありがとうございます。では、濱田委員をお願いします。

濱田委員

今、60分の番組の話が出たのですが、やはり日曜日の1時から島唄をメインでやるというのは、非常にコアな番組なんだろうなと思っていて、果たして60分どんな風になるのかなと、一回、一文(番組スタート時もう1人のパーソナリティーとして出演していた新元氏)と一緒にやっている時の話を聞いて、かけあいだけでぼかしている感じがしたんだけど、真吾の進め方というか、パーソナリティーとしてうまい具合に引き出しているなというか、修が言ったように、島口を上手に使ったりだとかというところで、パーソナリティー力みたいなので、1時間もたせているのかなという気がします。

ただ、前半が、もちろんゆんきゃぶり(方言訳:おしゃべり)も要素に入っている、コンセプトに入っている番組だから、ゆんきゃぶりはゆんきゃぶりでもいいんだけど、あの、今月の1曲っちいう所までに20分ぐらい、ずっとゆんきゃぶりが続いているというのは、少しあれ(長い)で、その中に少し解説めいたものがあったりして、芦検の唄の節回しとか、歌詞は同じなんですけど、っていう時に、島口を勉強したいという人がよし！聞くぞっち思って1時間尺で聞いているんだらうち思うわけ、日曜の1時間に。その時に島唄の歌詞についての解説みたいなものが少し足りなくて、前半にそれを持ってくれば、あとの後半は「稲すり」の話になって、「稲すり」の沖縄とのアレンジをして、ミックスをしてっていうところは、すごく勉強になる感じで、トリビア的要素が含まれているので、で、後半は後半で曲がまた2曲か何曲かあったりして、前半は冒頭に「朝花」と「くるだんど」があったりする所からすると、そのあたりの構成をうまいことやると、飽きずに聞けるのかなっていう気はしましたね。だから、聞くぞ！っち思って思っている人なんかたくさんいると思うので、そこら辺の工夫は必要なのかなと思います。ただ、やっぱり一時番組っちいったら、相当の長さなので、テレビとかだとNHK特集みたいなものがあって、いろんな解

説とかはテロップとかあるけど、ラジオはそういうわけにはいかないから、聞いている人が会話を聞きながら、聞き取れるように、誘導してあげないといけないんだろうと思うので、ただゆんきゃぶりだとちょっとあきる要素が出てきちゃうかなと思いました。

今回のCDが出張録音ということだったので、すごくそれは真吾の良さが出ていて、こうお宅訪問から入っていて、それで90歳と68歳の、特に90歳のシズばあさんとか結構乙女な感じがして(一同笑い)、唄歌うにしても恥ずかしがったり、そういう可愛いところなんかもう伝わってくるので、いいなあと思って。

出張録音っち多いの？

一放送局 丸田

基本的には最初は(ゲストを)お招きしていて、パーソナリティーも今は違いますが、新元一文さんも一緒にされていたのですが、どうしてもお仕事の関係上、2人が一緒になるという時間を調整するのが非常に難しくなってきました。また、お互いに打ち合わせする時間もだんだん少なくなってきたものですから、まあ、最初の番組コンセプトとしては若い唄者、前山真吾さんがいろんな方々の島唄を聞いていくということで、新しい島唄の背景だったり、本当の集落唄なんかを発掘できればいいなという、その辺で魅力を広げられたらなあという所があったので、メインで前山真吾さんをお願いしてやっています。ステージに立つ方というのはだいたい、決まってきたりとか、いろんな大会に出る方は決まってきたり、だったら各シマに一人は名唄者がいるはずだから、そういった所を発掘したいという想いが真吾さんにもあって、でもそういった方々は、なかなかスタジオに来てもらうというのが非常に困難でして。

濱田委員

だから、むしろ出張録音的なものを増やしてもいいのではないかいっち思ったりしましたね。ワンの友達が安木屋場で「ケンイチ」っちいう民宿をやっていて、ワンもちょくちょく唄いにいったりしよったけど、「宮田なんか彦うじ」ちいう人がいて、もう足も悪くて最近ガンにもなったということで、生きてらっしゃるかもわからんものだけれど、その宮田のじーちゃんの唄が、むる、ロバートジョンソンのブルースを聞くように、三味線と声が微妙にずれてたりして、めっちゃカッコいいんじゃないかな、これが。だから、そういう味のある唄を歌う人が各集落必ずいるということで、でも年齢層もかなり高いし、それなりに年とっているから、病気とかもあるだろうから、だからそういうところを尋ねていってというのがいいのかなと勝手に思いました。

深田委員長

はい、ありがとうございます。濱田委員、先ほど、新元さんが最初はいてという話を、丸田さんからも聞きましたけれども、今後、感想としてパーソナリティーは一人単独でいった方がいいかなとか、そういったご意見はありますか？

濱田委員

今回のCDは、90歳の方と68歳の方がもともとコンビを組んでらっしゃる方が2人で、だったので、真吾もうまい具合にやっています。真吾単独でも全然いいとは思いますが。ただ、芦検の節回しは違うよねっち言って、例えば真吾が「じゃあ、他の集落とはどこがどう違うと思います？」っていう風にはなかったと思うんだけど、(仮に)ふった時にだいたい「私なんか(方言訳:私達は「なんか」=「達」)芦検のひとだから他のとことは比較したことがないよ」というような感じの話が出てくると思うのね。そうしたら、真吾はあちこちで聞いているし、これ(この番組)も42回を数える訳だから、そこで真吾がこことここが違うんだよね、みたいな話をすると、やっぱり島唄に慣れ親し

みたい、勉強したいと思ってるリスナーの方にとっては、「あー、なるほど」、っていうのが出てきたりする。で、「あー、なるほどね」っていうのが後半にいっぱい出てきておもしろかったけど、やっぱりそういった要素が組み合わさっていくと、おもしろいのかなあと。それを考えると、やっぱり30分の時間では難しいのかなと。これって1時間の中でCMとか入るの？

ー放送局 丸田

一応、2回入ります。なので、実は3つのパートに分かれているのですが、お宅訪問で最初のイントロダクションの数分の所に一回CMが入ったあとに、前半の大きなAパートが始まって、一旦ブレイクのCMが入って最後のBパートが流れるという感じです。

濱田委員 今回トラックで切っている所にCMが入っているということ？

ー放送局 丸田 そうです。

深田委員長 はい、ありがとうございます。では、山田委員の方からお願いします。

山田委員

私もこれは結構聞いていて好きな番組なんですけど、シマ唄に興味を持っているかどうかということよりも、特に今(奄美群島日本復帰)60周年ということで、今みんなが60年前はどうだったっていうのを番組の中ですごい言っているじゃないですか。濱田委員が言っていたように、今回は出張で行ってその人(ゲスト)の慣れている環境に行っただっていうのが、本人達がものすごくリラックスしていて、真吾自身もその人たちのことをよく知っているから、なんていうかスタートから和やかとか、緊張感が無かったっていうか、私はそういうスタートが、真吾がこの人たちのことをよく慕っているっていうのが、本人達に伝わっているから、こういうふうにお互いに柔らかくできるんだと、初対面同士じゃなくて面識がある中でのやりとりなんだなっていうのを、最初からすごく感じました。

シマ唄の歌詞って、シマ唄を習う人たちは知っている歌詞がいっぱいあると思うんですよ。でも(今回のゲストの)この人たちはその歌詞がどうやって出来たのだとか、例えば「この唄はこういう意味なのよ」とか、その時代のその風景を見ている人たちが、「こういう情景を歌っている唄なのよ」っていうのを話していました。

実際に見ていない私たちは歌詞だけで聞いて覚えていることだけど、その世界を見てきた人たちが、そのことを言いながらお話をしているということ、お宅訪問をして本人たちが、緊張せず言われたことだけに答えるのではなく、自分から引き出しをだすような、これは沖縄とどうだとか、だからこの時代の、この唄ができたきっかけとか、そういう時代を見ることも一緒にできるというのは、シマ唄が好きとか嫌いとかじゃなくて、“奄美の時代”というのも一緒に見れるんだなって思って、すごい興味深く聞けたんですよ。

私は笠利なので、ひぎゃ(奄美大島南部地方のこと)とか南に行くとか全然節回しとか違うし、唄も違うと感じます。そういうなかで真吾は、いろいろな唄を聞いているから、その中で味がある唄とか、そういう表現が嫌味じゃなく聞けて、それは真吾がそれだけシマ唄をすごく好きでいろんな所に行っているというのがあるからだなって思って、そういった意味ではパーソナリティーとしては本当にもってこいだっただなって思いながら聞いていました。

そして、時間にしても、濱田委員が言っていたように、こういう引き出しを上手に出して、その人たちの時代を聞こう、その中からこういう唄が生まれたっていう世界を見ようと思ったら、やっぱり1時間ぐらいの時間がなけれ

ば聞けないんだなっていう思いと、再放送がある中で「この前ここまで聞いたんだっのに」とか、たまたま付けたらこの前聞いたところの続きだったとか、やっぱりそういうのがあるので、時間帯が合わないという人がいっぱいいると思うので、この時間帯を少しずつずらしてっていうのもいいと思いました。

また今、60周年ということで時代をすごく見ている番組が多い中で、シマ唄というのが時代に無くてはならないというか、時代と一緒に動いているというのを、高い年齢の人たちの唄を、地元の人のお話を聞けば聞くほど感じられるので、スタジオに呼ぶとかじゃなくて、さっき濱田委員が言ったように出張をメインにして、その人たちのリラックスしている環境の中でそういうのを引き出しながら番組を作っていけたら、大変なんだけど、もしできたらおもしろいんじゃないかなって思います。

深田委員長

ありがとうございます。山田委員に聞きたいのですが、このメンバーの中で一番お若いので、前山くんがこういう番組をやっていますけども、もっと下の年代、例えば高校生とか中学生とかにも影響を与えるような感じがしますか？

山田委員

まず、若い人たちは上の(世代の)人たちが歌うってということよりも、その(上の世代の)人たちと同じぐらいのこと(レベル)で、話についていけている真吾を、多分カッコいいと思ってシマ唄を自分もやりたい、例えば三味線はほとんど真吾が弾いているわけじゃないですか、全部の、いろんな、土地が違う人たちの唄なのに、そういうところで、「あ、この人何でもできるんだ」っていう所で、真吾にはプレッシャーになるかもしれないけど、ある意味真吾の存在って言うのが、若手の中で男の子なんかにとっては、「自分もこういう人になりたい」みたいな、いい刺激になっているんじゃないかあって思いますけどね。

深田委員長

ありがとうございます。ディさんに質問でちょっと教えて欲しいのが、今までに何回放送していますか？

一放送局 丸田

今度の日曜の放送で45回を数えます。2010年の4月からスタートしているので、もう丸3年、4年ぐらいになりますね。

深田委員長

今、出張でやるのがっていう話で、今回はいい風に話が引き出せていたので、みなさんこういった意見が出たと思うのですが、45回の間に変った進行の型になった回っていうのはあったっていうのかが知りたいです。特に大きく変わった進行の流れで進んでいった、っていうことは知る限りはないですか？

一放送局 丸田

そうですね、大きく分けて構成自体は3つのブロックでいきましょうという所でスタートして行って、このお宅訪問の形になるようになってから、イントロダクションが非常に短くなったというか、その集落のおじ、おばなんかの家を訪ねていくというのは、集落の風景、環境音からとりたいたいという私の思いがありまして、前半のイントロダクションって言っていますが、本当であればAの部分だった部分がちょっと短尺になってしまっているというのがあります。ただ、大きな構成は3つの部分で出来上がっているというのは、当初から変わらないですね。

深田委員長

ありがとうございます。変わった進行があったかって聞いた中に、話べたな方がいらっしゃって、場合によっては飛び込みでゲストをどなたか引っ張ってきて盛り上げたとかそういう形があったのかなというのも聞いたかったので、そういう質問をしました。

ー放送局 丸田

予定されていた方が、スタジオにゲストをお招きして収録していた時の方ですが、その日にお願いしていた方が急遽来れなくなったりとか、違う方に来てもらったということもありましたね。

ー放送局 上野

基本、収録なんですけど、末広市場ディ放送所が出来てからは生放送でもいいのではないかとになりまして、末広市場から生放送で何回かやったことがありました。その内の一回で、どなたでしたっけ、誰かの放送を「今日は生放送です」と言ったら、(若手唄者の)俊治さんが飛び入りで来て下さいまして、(山田委員:あー、聞いた!)私も普通に運転しながら聞いてたんですけど、「おー、来たーっ!」ち言って、ちょっとおもしろかったです。そういうこともたまにはあります。

山田委員 末広市場もいいかもしれないですね。

ー放送局 上野 そうなんですよね。収録でもすごく雰囲気が良くてですね。

山田委員 陽子姉さん(放送局 渡)のよく聞いているよ。魚屋さん。(笑)

ー放送局 渡

「なちかしゃみくいば〜」の放送を末広市場からやったことが3回から4回あって、私はたまたま(放送所に併設されている駄菓子屋の)店番してたんですけど、その時にやっぱり聞いている人なんか、今やっているっち(ラジオで)聞いたから三味線聞きにきたよっち、そこでおじなんか座って聞いてくださったり。

山田委員:そうそう、近くに自然と人が集まるよね。

濱田委員 ほんと、いいかもね。

山田委員

井戸端会議する場所があるがね、集落の中で。必ずおばちゃん達の椅子が指定されている場所が。例えば、そういう所でやるっていう感じにすると、そこら付近で暇な人がぼちぼち来たり、唄歌ったり、宇検なんか特に出来るんじゃないかと思ったりするんですけどね。

濱田委員:そういう意味ではライブ感があっていいのかもね。これなんかも訪問して収録しているものだから、ライブ感がすごくあるよね。

ー放送局 上野: この時はあれですね、送り節で送られたらしいですね。みんな集まって。(笑)

深田委員長

はい、ありがとうございます。では、最後になりますが他の委員から、今回いろいろ頂ければ読み上げる予定だったんですけども、ないので私のほうで思ったことを述べさせて頂きたいと思います。合間合間で質問で出していたので、ちょっと簡単にはなりますけれども、今回、先ほど言っていた、自宅で収録とか市場の話と

かありましたけれども、そのポイントとしてこの番組では素をどれだけ出せるかというのがすごくポイントになるのではないのかと思いました。さっき、山田委員からもありましたが、若い唄者が発信するということでいろいろな世代に響くなど、そういうのを非常に思いますし、島ラジオとしての大切なコンテンツだということも非常に思いました。

前山君の、のびのびとした方向性というか、癒し系というかそういった所のキャラクターがいいので、だから聞きやすいのかなと思いました。穏やかな語り口というのもあってそう思いました。

もう一個質問になりますけれども、いつもスポンサーの話をするのですが、これは基本的にはスポンサーが付いているのですか？ 打診とかそういった流れとかもないですか？ 過去に四十数回ありますけれども。

—放送局 丸田:付いていないです。

深田委員長:今後、営業するとかいう方向性とかも今の所予定していないのですか？

深田委員長:そうですか。

—放送局 麓:お願いします。(遅れて麓が参加)どうも遅くなってすみません。

深田委員長:私の方からはそんな形で、特に思ったことは、やっぱり素人の方を引き上げるので、素を出せるポイントというのが、今回の委員のいろいろな御意見の中からヒントがいっぱいあったのではないかなと、ですので、これをぜひディの方でもう一回挙げてもらって、今後もっとゲストの素が出るような形に持っていけたら非常にいいのではないかなと思いました。

私の方は以上になりますが、議題2にそのまま進みます。今のは番組の話ですけれども、それ以外の、大枠であまみエフエムに対しての御質問とかなんかありますか？

忙しいのでがんばれとしか僕は言えないですけれども。(笑)

(質問が出なかったので)次回の話をするか、憲吾兄が今来たので、なにか一言、最後でもいいですか。

濱田委員

私からちょっと、自分のメモの中から言い忘れたことを。ま、似たようなことは言ったんですけど、島唄の解説等がもっと詳しいほうがいいのではというような部分で、解説というよりは、例えば、歌ってもらった曲があったとしますが、今月の一曲だったり。それ以外でも後半出てくるような曲の中で、そこで例えば真吾のほうから、「この歌詞の意味はどんな意味があって、どんな思いを込めて歌ってらっしゃるのですか」とかいうフリがあってもいいのかなと。結局、得意歌を後半に持っていくわけですからその集落の。そしたら、「自分はかしゃん(方言訳:こういった)意味で、こんなこんなで、この所はほんと節回しが難しくてね、若い頃はだいぶ練習したのよ」とか、「この節が特に好きっちょね〜」ちっ言って、「こんな思いで歌っているのよ〜」みたいなやつを引き出すような問いかけが一本あると、さらにちょっと深まるのかなと、そしたらその時に、その話の関連で山田委員が言ったような、当時の事の話が出てきたりとか、で、そのことによって集落の情景が浮かんだりとかいうのがあるともっといいのかなと、ちょっとそこだけ言い忘れてました。

中村委員:他の回では結構歌詞について話しするよね。なんかたまに聞くときは、たいがいよくそのフレーズの話をしているよね。

—放送局 丸田

今回みなさんにお届けしたのは、ひぎゃ節で字検の芦検というところで、前山さんにとっても島唄のホーム的

などころでもあったのかもしれないですね。その前の回が笠利だったんですよ。笠利の時には、初めて見るもの聞くものだったりするので、「それ何ですか」とか、「お茶碗で踊るんですか」とかそんな話も入っていたりして、その回ごとの、ケースバイケースですが、その辺はあえて1つ、今お話を聞いて、同じような質問を、その歌詞の意味だったりとかっていうのを設けてもいいかなと感じた所でした。

深田委員長

唄い手の方は、誰かしらから唄を習っているわけで、誰かお師匠さんがいると思うのですが、その方のエピソードとかどういう風に習ったかとか、もともと口伝で伝わっているものなので。。

山田委員

床下にお祝いの度に隠れて唄を聞いていて、親に捜されて、またどっかのお祝いがあるっちいったら「床下にいるはずじゃが、探してごらん」っち言われて(一同笑)。子供は歌っちゃいけないし、お祝いの場所に行っちゃいけなかったから、「自分はそうやって唄を聞いて覚えたよ」っちいうおばちゃんや、「自分の唄の教えはお母さんがずっと教えてくれた」っち言ってるおばちゃんがありました。

CDとかにしても絶対おもしろいですよね。いろいろな話の。

深田委員長:ぜひ毎回聞き出してもいいぐらいのキーコンテンツになるかなと思いますよね。

濱田委員:そういう意味では本当にコアな番組だよな。(一同うなづく)

(3) 次回の審議議題について

一放送局 上野

「あの日あの頃～アメリカ軍政下行政分離期の奄美を語る～」の制作を担当しています。この番組は2008年の4月にスタートしました。毎年12月25日の復帰の日に2時間のスペシャルでやっているのですが、今年の12月25日で69回を数えます。その前の回ですので、第68回放送を聞いていただくことになります。

今深田委員長からお話いただいた内容が、おおまかなことになのですが毎回、例えば楠田豊春さんや崎田さんであるとか、(復帰運動の)中心人物をお招きしてお話を聞いていて、残していかなければいけない、というのが第一にあったと、立ち上げたスタッフから聞いています。私が担当しているのは今年の5月からなのですが、シマに今住んでいらっしゃる方だけではなくて、何かの機会に島に帰っていらした方とかにも、花井さんに紹介していただいたり、アポをとってお話をうかがったりして、今はいろいろな方々に出ているところなんです。

毎月一回の、「なちかしや～」と同じ形なので、さっき議題に上がった、一時間で、しかも1人の語り部で、思い出の品を毎回持ってきていただくのですが、それが“もの”だったりすると、曲が全くなかったりするんですね。BGM以外の曲もなく、アクセントとして財部めぐみさんのミニコーナーはありますが、財部めぐみさんのお話がきききんと入ってくるかどうか、人によっての差もありますので。最初のころは、「次はこの話をしましょう」とわりと決め込んで作っていたとのことですが、今は、もうある程度の下打ち合わせを30～40分ぐらいはするのですが、あとは全部財部さんに主な聞き手としてお任せして、キリがいいところで一旦区切って、パート分けだけこちらでしているところなんです。なので、掛け合いがどうなのか、ということ。一応編集もしています。今回の山田サカエさんは3～4年前にも出ていただいたことのある方なので、わりとお話をされる片だと思っていますが、聞いてみて感想をいただけたらと思います。

次回の番組審議会は来年の2月12日木曜日、19:30 からに決定し、閉会する。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送:平成 26 年 1 月 25 日(土曜日)6:00～放送

② 書面の備置き:平成 26 年 1 月 25 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応

③ インターネット:平成 26 年 1 月 25 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし